

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ)					担当教員	石川 英樹 (イシカワ ヒデキ)	
2020-23 年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	課題解決型 AL / 協同学修型 AL
	2025-0-31-060	ゼミナール科目	必修	2 単位	3 年次	通年		
2024-25 年度 入学者(24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	課題解決型 AL / 協同学修型 AL
	2425-0-31-005	ゼミナール科目	必修	2 単位	3 年次	通年		

① 授業のねらい・概要
栃尾地区の地域活動団体や栃尾高校のみなさんと協働し、地域イベント活性化、地域の魅力発信などに取り組む。その活動を通じて、地域経済・プロジェクト管理手法・地域ブランディングなどについて学ぶ。さらに社会人基礎力を醸成してキャリア開発につなぎ、就業力向上への寄与も意図した授業である。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。
③ 授業の進め方・指示事項
地域活性化アドバイザーや栃尾地区の方々からご意見をいただき、ゼミ内で議論し具体的な取り組み内容を確定する予定である。学内にとどまらず、栃尾地区などでのフィールドワークに積極的に取り組んでいく。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「地域活性化論」
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。
特に指定しない。毎回レジュメを配布する。
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
過去の地域活性化プログラムの活動報告書は必ず目を通しておくこと。さらに必要に応じて授業中に随時紹介する。
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
昨年度までの反省点をふまえて、ゼミのアドバイザーからのご指導及びゼミ全体での活動進捗などを確認しながら講義を進めていく。
⑧ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 設定された地域課題に対する活動を企画し実行できる。 (ii) 活動成果をプレゼンテーションおよび最終報告書として適切に表現できる。 (iii) 将来のキャリアの目標実現にむけてゼミ活動を位置づけて取り組むことができる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 地域課題に対する活動の企画・実行	活動の企画立案・実施計画策定を実行で、グループ全体を取りまとめられる	グループの方針を理解し、企画立案・実施計画策定に向けて自主的に取り組める	グループにおける指示を受けることで、企画立案・実施計画策定に向け取り組める	グループにおける指示と教員の助言を受けることで、企画立案・実施計画策定に向け取り組める	グループにおける指示と教員の助言を受けても、企画立案・実施計画策定に向け取り組めない
(ii) 活動成果の表現	活動の成果のとりまとめと発表について、グループ全体のとりまとめができる	活動の成果のとりまとめと発表について、自主的に協力・貢献できる	活動の成果のとりまとめと発表について、指示を受けることで協力・貢献できる	活動の成果のとりまとめと発表について、指示と教員の助言を受けることで協力・貢献できる	活動の成果のとりまとめと発表について、指示と教員の助言を受けても協力・貢献できない
(iii) キャリアの目標実現への取り組み	自身のキャリア目標を明示でき、その実現策にゼミ活動を位置づけている状況を十分説明できる (自己分析・自己 PR シート等)	自身のキャリア目標を明示でき、教員の助言の下に、その実現策にゼミ活動を位置づけている状況を説明できる (自己分析・自己 PR シート等)	自身のキャリア目標を、教員の助言の下に設定し、その実現策にゼミ活動を位置づけている状況を何とか説明できる (自己分析・自己 PR シート等)	自身のキャリア目標を、教員の助言の下に設定できるが、その実現策にゼミ活動を位置づけている状況を十分説明できない (自己分析・自己 PR シート等)	自身のキャリア目標を、教員の助言の下でも設定できない

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 （レポート含む）	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			60%	10%		30%	100%
（i）地域課題に対する活動の企画・実行			50%				50%
（ii）活動成果の表現				10%		30%	40%
（iii）キャリアの目標実現への取り組み			10%				10%
フィードバックの方法	毎回の授業で、討論や諸活動の成果等について講評する。ループリックを活用し評価を共有する。提出課題等は評価し返却。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	オリエンテーション、昨年度の取り組みの振り返り、課題の整理、栃尾地区の現状把握・課題抽出	活動概要の検討。課題レポートの作成、今年度の取り組みの提案メモ	60 分
2	テーマの基本的な方向性の決定、取り組み内容の討論、組織構成の検討、補助金申請準備	栃尾地域の様々な地域資源について情報収集と整理、フィールドワークの準備、補助金申請作業	120 分
3	取り組みの柱を確定、担当グループと人員配置の検討、	取り組みの詳細の検討、班組織についての検討	120 分
4	フィールドワーク（トチオーレ記念イベント）の計画、分担の決定	イベント参加後の振り返り、課題整理、今後の進め方の検討	120 分
5	各取り組みについて班別での検討、「とち音結び」への参加の打合せ	班別の議論のまとめ、次週以降の打合せ準備	120 分
6	「とち音結び」の打合せ・確認、大垣市訪問準備、その他班別の取り組み打合せ、SNS 広報の確認、ヒアリング等フィールドワーク準備	「とち音結び」参加の振り返り、班別の議論のまとめ、次週以降の打合せ準備	120 分
7	班別の議論（大垣市訪問、商品開発、イベント企画等）、栃尾高校との共同授業ふりかえり議論	班別議論のまとめ、次回の準備、情報収集と整理、高大連携授業準備	120 分
8	栃尾高校との共同授業①、班別で打ち合わせの続き	共同授業の成果の取りまとめレポート作成、高大連携授業ふりかえり	120 分
9	共同授業成果についての議論、イベントと PR 取り組みの企画案詰め討論	各担当班の業務整理の文書作成、次週以降の打合せ準備	120 分
10	班別のフィールドワーク（ヒアリング等情報収集）の実施	フィールドワークの報告書作成、各担当班の業務整理の文書作成	120 分
11	班別の議論（大垣市連携、商品開発、イベント企画等）、栃尾高校との共同授業準備の議論	班別議論のまとめ、次回の準備、情報収集と整理、高大連携授業準備	120 分
12	栃尾高校との共同授業②、班別で打ち合わせの続き	共同授業の成果の取りまとめ、高大連携授業ふりかえりまとめ	120 分
13	共同授業成果についての議論、イベントと PR 取り組みの企画案詰め討論	ディスカッションふりかえり、各担当班の業務整理の文書作成	120 分
14	中間報告のとりまとめ作業、各取り組みの企画案、PR 法などの詰め討論、担当グループ別の討論と作業	中間報告の作成準備、各担当班の業務整理の文書作成	240 分
15	ゼミ内での中間報告会実施（アドバイザー招聘）、班別に今後の進め方の見直し討論、夏休み中のトチオノアカリ関連準備の計画策定	中間報告の完成、中間報告のふりかえりレポート作成、トチオノアカリ関連準備の計画の班別詳細整理	240 分
16	班別の議論（夏休み中の取り組みのふりかえり）、商品開発関連の全体議論	各担当班の業務整理の文書作成、次週以降の打合せ準備	240 分
17	班別（大垣市連携、商品開発等）フィールドワーク（ヒアリング等情報収集）の実施	フィールドワークの報告書作成、各担当班の業務整理の文書作成	120 分
18	フィールドワークの振り返り、班別（大垣市連携、商品開発等）打合せと作業	各担当班の業務整理の文書作成、次週以降の打合せ準備	120 分
19	班別（大垣市連携、商品開発等）打合せと作業	各担当班の業務整理の文書作成、次週以降の打合せ準備	120 分
20	班別（大垣市連携、商品開発等）打合せと作業、課題の整理等	各担当班の業務整理の文書作成、次週以降の打合せ準備	120 分
21	班別（大垣市連携、商品開発等）打合せと作業、課題の整理等	各担当班の業務整理の文書作成、次週以降の打合せ準備	120 分
22	班別（大垣市連携、商品開発等）打合せと作業、課題の整理等	各担当班の業務整理の文書作成、次週以降の打合せ準備	120 分
23	班別（大垣市連携、商品開発等）打合せと作業、課題の整理等	各担当班の業務整理の文書作成、次週以降の打合せ準備	120 分
24	成果発表会の準備～発表内容の打ち合わせ	プレゼンテーション資料の作成作業	240 分
25	成果発表会の準備～発表資料類の調整	プレゼンテーション資料の完成と発表原稿の作成	240 分

26	成果発表会の準備の仕上げ	発表原稿の完成と発表の練習	240 分
27	成果発表会のふりかえり、次年度の課題の抽出	報告書原稿の執筆	240 分
28	成果報告書原稿作成～個人別作業、次年次計画の議論	報告書原稿の執筆、次年次計画のメモ作成	240 分
29	成果報告書原稿作成～チーム別作業、全体調整、次年次計画の議論	報告書原稿の執筆、次年次計画のメモ作成	240 分
30	次年次計画の作成、成果報告書原稿作成～全体調整	次年度計画書と報告書の原稿完成	120 分

⑫ アクティブラーニングについて			
課題解決型 AL 及び協同学修型 AL を採用する。共同でフィールドワークを実施し、社会人基礎力を培っていく。年度後半に、成果報告会での発表と成果報告書の作成を共同で行い「社会人基礎力（チームで働く能力）」を醸成する。			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性